



NIED 地すべり地形分布図データベース
Landslide Distribution Maps



サイト内を検索
 WWW検索
[トップページ](#) | [ENGLISH](#)

[TOP](#) | [地すべりを知る\(解説\)](#) | [地すべり地形分布図の作成方法](#)

地すべり地形分布図の作成方法

地すべり地形を判読するには、空中写真による実体視判読が現時点でもっとも有効かつ現実的な方法です。現在、コンピューターにより数値標高データなどを用いた地すべり地形の自動認識などの研究が試みられていますが、人間の3次元的な形状認識力には遠かに及ばないのが実情です。空中写真による実体視判読は熟練を要する作業ですので、どうしても個人差が生じてきます。しかし、長年にわたり様々な地域の種々のタイプの地形判読を行ってきた研究者が一定の基準によって判読すれば大きく狂うことはありません。写真判読だけでは疑問な箇所は現地踏査を併用するなどできる限り正確を期して図の作成にあたっています。

空中写真の実体視→地すべり地形の判読

地すべり地形は実体鏡を用いて空中写真から判読します。隣接する二枚の空中写真を実体鏡で覗くことにより地形の凹凸を細かく読み取ることができます。判読に用いるのは、国土地理院が撮影した1万分の1モノクロ密着焼きの空中写真です。これは全国をほぼ同じ精度でカバーしていること、未撮影区域や雲で隠蔽された地域がないこと、日本列島の開発がまだあまり進んでいない時期の写真であることなどを理由に選びました。ここで特定される地すべり地形は、次の工程で5万分の1地形図上に実形で書き写すという制約から、単位地すべりの幅が約150m以上の大きさのものです。特定された地すべりの滑落崖、移動体、内部構造、移動方向などの情報を空中写真の上に直接、専用の色鉛筆で書き込みます。

判読結果を地形図上へ書き移し(原図の作成)

空中写真判読によって特定された地すべり情報を、5万分の1地形図上に所定の凡例を用いて書き移すことにより原図を作成しています。ここまでが研究者の行う作業です。

原図をトレースして製図

製図および印刷作業については地図作りを専門とする地図製業者にお預けしています。前工程に用いたのと同じ凡例で地すべりの滑落崖や輪郭構造を描いてゆきます。作成した図は、判読者が2回以上校正を行っています。

網掛けした地形図上に製図した地すべり地形を重ねて印刷・刊行

国土地理院発行の地形図を基図としてその上に製図した地すべり地形の図面を重ねて印刷します。基図の地形図に関しては薄い色にするため、網がけをしています。印刷した図面は収納箱に説明書とともに入れて完成です。

[前へ](#) [解説TOPに戻る](#) [次へ](#)

コンテンツ

地すべり地形分布図を見る

- 地すべりWeb-GIS(修正中)
- ▶ [地すべり地形GISデータ](#)
- ▶ [地すべり地形分布図PDF](#)

地すべりを知る(解説)

- ▶ [地すべり地形分布図について](#)
- ▶ [本データベースの利用方法](#)
- ▶ [土砂災害を防ぐために](#)

その他のトピック

- ▶ [著作権について](#)
- ▶ [お問い合わせ](#)
- ▶ [FAQよくある質問](#)



独立行政法人 防災科学技術研究所



独立行政法人 科学技術振興機構

お問い合わせ: 独立行政法人 防災科学技術研究所 社会防災システム研究領域 災害リスク研究ユニット
 防災科学技術研究所Webサイト: <http://www.bosai.go.jp/>

http://lswb1.ess.bosai.go.jp/kaisetsu/2-4map-generation.html

2014/03/01